なりきりカメラマン
～わくわくおどろきパンホール写真教室～
～社団法人 日本写真協会

「写真」はデジタルカメラで撮るもの、と子供たちは思っているかもしれません。デジタルカメラが一般家庭に普及したのは1990年代半ばですから、ネガフィルムや白黒写真を見たことがない子供たちも、多いのでないでしょうか。

社団法人日本写真協会（以下、「日本写真協会」という。）は、写真を通じて国際親善の推進と、文化的発展に寄与することを目的として設立された団体です。子供たちに写真撮影を教えるため、学校や様々なイベントでの出前「写真教室」を行っています。今回は、大田区立梅田小学校（吉田孔一校長）で開催された「なりきりカメラマン～わくわくおどろき パンホール写真教室～」の様子を紹介します。

今回の写真教室のテーマは、「カメラマン」です。4年生の児童が、事前に日本写真協会のキットを組み立てて、パンホールカメラをつくりました。写真を撮るためには、手のひらサイズの穴が開いた金属製のケースと、シャッターで穴をとめるものが必要です。今回は、教室の前に陳列されている写真家の方々の作品が展示されていました。

最初に今回の授業についての説明を聞き、板 Connectivity日本写真協会の指導者から、ボランティアとしての役割について説明がありました。最初の回では、雲の下でカメラのシャッターを完全に開けていませんでした。暗室に戻って、ネガを現像します。もう一度写真を撮り、2枚のネガを貼り付けました。そして、プリント作成ですが、印画紙を受け取り、暗室で乾燥して、現像を確認しに行きます。現像液の中から画像が浮き出ると、児童たちの歓声があがりました。

自分で作ったカメラで撮ったら、友だちと並んで写真、花壇、遊園地前の風景、2枚のプリントを見比べながら、作品に書く写真を選びます。どうしたらいいのか、選びながら Scandinavian写真協会の指導者が見ています。感想文には、「このカメラで写真が撮れるなんて、思いもしなかった」というコメントが多かったです。「ここで学んだことは、写真が楽しいということが分かりました。」

この授業のポイント！
○自分の手でカメラマンを組み立てて撮るこ "と、現像という実験的た作業を通して、ものづくりに興味をもってくることができます。
○日本写真協会の方から、大人数の直接指導をしてもらうことができます。
○協会が作成した「写真って楽しいよ」教材を使って、写真についての理解を深めることができます。

日本写真協会の写真・映像教育推進委員会
副代表：杉木 彦さんにお話を伺いました

写真は今から約170年前に発明され、瞬間を写すという目的が生まれ、多くの人々が写真撮影を楽しむようになりました。現像は、写真が自由になったことを示しています。そこで、このプログラムでは子供たちが「写真の楽しさ・面白さ」に出会い、心から喜び、感動できる「写真教室」を目指し、写真がどうやってできるのか「モノクロ写真ができるまでのプロセスが体験できる写真教室」の普及により子供達の豊かな感性、人間性、社会性を育むことを目的としています。

小学生を中心に幼稚園児から高校生、親子や初めての方を対象に、学校への出前授業はもとより、地域の児童館や公民館などで、土・日や休休休日の子供体験教室としても実施しています。体験時間は2時間〜3時間です。

【連絡先】社団法人 日本写真協会 千代田区一番町25 JR丸ビル 電話03（5276）3585 http://www.psj.or.jp/